

ペルー 晩生マンダリンの輸出が力強い成長

[fresh fruit 2024年9月2日](#)

2024年7月までに合計14万3,410トン(22%増)、1億8,500万米ドル相当(44%増)を出荷

近年、ペルーはこの地域の柑橘類産地として重要性を増している。このプロセスを推進した品目の1つがマンダリンであった。新しい市場の開拓と農産物輸出の拡大に伴い、マンダリンとその様々な派生品種はペルーの生産者によってますます商業的に探求されており、有望な結果を示している。

国際的なマンダリン市場は、近年のパンデミック以来、非常に不安定な状態を示している。この品目は繊細であるため、パンデミック後の物流上及び気候学的な問題の影響を特に受けやすかった。その結果、世界中で取引パターンが不規則になり、潜在的な競争相手が世界の主要市場に参入する新たな機会が生まれた。

ペルーでの生産は、国際市場でほとんど評価されない非常に一般的な品種から始まったが、時間の経過とともにこれは良い方向に変化した。現在、ペルーでは数多くの品種と「亜種」が生産・輸出されている。実用的な理由から、それらは3つの大きなグループに分類することができる：**ハイブリッド**の中では、マーコット、ナドルコット、オッリなどの品種が際立っている(このグループは75%を占めている)。**クレメンタイン**には、プリモソール、オログランデ、クレメンソール等の優れた亜種がある(シェアはほぼ15%)。そして最後に、**ウンシュウミカン**(サツマ)には尾張、興津等の亜種がある(シェア10%)。ハイブリッド品種は、国際市場での需要の増加により、クレメンタインやウンシュウミカンに比べてますます多くの栽培面積を獲得している。

ペルーのマンダリン生産の現在の動向を観察する上でもう一つの重要な点は、収穫時期である。マンダリンには早生と晩生の品種がある。ペルーでは、以前は早生品種が主体であったが、国際市場の需要に合わせて収穫時期の遅い品種へのシフトが次第に顕著になった。現在、ペルーの輸出の大半は晩生品種である。

直近のエルニーニョ現象は、今シーズンの早生品種の収穫に大きな影響を与えた。そのほか品種の変動があり、ウンシュウミカンは44%減少し、プリモソール等のクレメンタインの一部の亜種も7月までに75%の減少が報告された。一方、マーコット、ナドルコット等の晩生品種は7月までに、同国で見られた天候の恩恵を受け、収穫量が90%増加した。収穫期間の残りの月はハイブリッド品種が主体となるため、今年が良い結果で終わることが期待される。

2024年1月から7月までの輸出は1億8,500万米ドル相当の合計14万3,410トンで、これは金額で44%、数量で22%の成長に相当する。価格に関しては、ほとんどすべての品種で上昇が報告されており、平均単価は1.28米ドル/kgで前年に比べて18%高い。最も価格の高い品種はクレメンソール1.44米ドル/kg、ノヴァ1.38米ドル/kg、プリモソール1.32米ドル/kgであった。

輸出動向

ペルー産マンダリンの主な輸出先は米国であった。米国内の生産量は平年を最大16%下回り、主要輸出国に新たな参入余地を生み出した。また、早期に始まった今年の米国の出荷シーズンは同じく早期の終了が報告されているため、ペルーの晩生品種にとって好都合である。昨年までは、年の前半の出荷量はクレメンタインが多かったが、今シーズンは大きく変わり、マーコットの出荷量が大幅に伸び(164%増)、米国向け輸出で最も多い品種となった。これにより、7月までの米国向け出荷量は54%増となったが、米国内の生産の低迷により需要が満たされていないため、平均価格は約12%上昇した。

一方、ヨーロッパ向けについては、従来、年の前半に最も出荷量が多いのはウンシュウミカンであったが、今年は驚いたことにナドルコットが137%以上も成長し、ウンシュウミカンに取って代わった。しかし、この増加はウンシュウミカンの亜種等、他の品目の減少を埋め合わせることができず、総出荷量は12%減少した。一方、価格は約21%上昇し、この状況を十分に補うことができた。